

〈資料〉

## ヨセフ・チャペックと「歴史から学ぶ」

森島 吉美・Stefan Mitzlaff・Tetsu Kido

(受付 2013年5月20日)

### 序 文

広島平和記念碑（原爆ドーム・原爆投下時は広島県産業奨励館）は、1915年（大正4年）4月5日に竣工、同年8月5日に開館した。設計はチェコ人の建築家ヤン・レッツェル（Jan Letzel）であった。ヤン・レッツェルの生涯は、1880年～1925年である。これから紹介するヨセフ・チャペックと重なるところも多く、また彼らの関心事（美術）も多くのところで重なっていた。お互い直接的関係があったかどうかはわからない。たまたま筆者の関心が二人を結びつけたまでである。

ヨセフ・チャペック（1887年～1945年）は、チェコの画家でもあり作家でもあった。彼は、弟のカレル・チャペックとともに、第一次大戦後のチェコスロバキア共和国で活躍した。

彼の作品の多くを保存し現在に伝えてくれるウルリッヒ・グロホトマンの『近くの歴史（ヨセフ・チャペックの生涯史）』から、ヨセフ・チャペックのデッサンの一部を紹介する。

これらのデッサンは、ドイツ国会議事堂で2013年2月に開催された「ジョセフ・チャペック展」において展示されたものである。展示主催者（責任者）はウルリッヒ・グロホトマン自身であった。日本でも展示の予定である。そのためのカタログにでもなればとここにそのまま発表することにした。この展示会の実行委員会のメンバーは、ウルリッヒ・グロホトマン、カッセル市の画家シュテファン・ミッツラフ、翻訳者としてテツ・キド氏、それに森島の4人である。

### ヨセフ・チャペック

ヨハネス・ウルツィーデル（森島訳）

1911年、ヨセフ・チャペックを典型に、新しい知識を熱望する個性が、チェコの絵画に決定的な影響力を持ち始めた。あらゆる教条主義やドグマから自由に、チャペックは、過去に

まなごしを向ける芸術家としてではなく、完全に現実に身も心もささげた芸術家として、たちどころにその舞台上で主導的役割を果たした。彼は自身を造形芸術に限定するのではなく、一連の文学作品、詩的散文、演劇を絵画と同じく創造的現象としてとらえ、時には彼の弟カレル・チャペック（作家であり同時に才能豊かな画家でもあった）と一緒に、絵画を他ジャンルと合わせて構成していった（kontrapunktieren）。二人は、同時代のフランスのゴンクール兄弟のように、お互い必要な変更を加えつつチェコの現代芸術を制作した。しかし、それは、<画家>ヨセフ・チャペックが文学を、あるいは<小説家>ジョセフ・チャペックが絵画を趣味で関係つけたというもではない。むしろ、自身の意図を表現するのに適当と思われるあらゆるジャンルの真にチェコで新鮮なるもの、純粹無垢なるものを利用したまでのことである。何物にも汚染されていないラディカルな新しいものの追求という観点から、チャペックにおける、そこに表現されるものもつ、決して即興的なものではない、実験的なものではない迅速な手法の変更の自由というものの説明がつく。彼は自信を持って自身の「音」を貫き通し、自身を性格的に特異なものとして不安視することもなく、自ら奴隷的に誰か他の芸術家、あるいは学派の形式に従うこともなかった。彼は、まずはドーミエ、それからマティス、ドラクワ、ピカソ、ブラック、ムンクといった、彼が素晴らしい、正しいと思った芸術家から学ぶことには頓着しなかった。というのは、彼らへの信仰が彼から自由な息づかいを奪うなんてことを恐れる必要がなかったからだ。彼は、芸術理論、その問題性をとらえる姿勢において、すばらしく利発的で思慮深く、また、ゆるぎないものを持っていた。そして、これらの知的な力からのほとんど何も彼の創造的力への浸透力を持ちえなかった。この創造力の中では、思考力が勝つ要素は微塵もなかった。

「直観（創造力）とは、核でもなければ皮でもない。それは一度にすべてのものである」

多くの人は、ヨセフ・チャペックを折衷主義者と思いがちである。チャペックが、その場、その時にあらゆる媒体に飛びついて自身を見失うようなことがあれば正しいといえもしようが。しかし、いかなる状況においても、彼の絵のすべてにおいて正真正銘のチャペックがいつも存在し、そしてそこに、単純化と明晰さへの彼の大きな衝動、彼の確たる優越性と、とりわけ彼の社会主張の芸術的特徴が目に見える形で表れているかぎり、彼らは間違っている。チャペックは折衷的ではない。彼は統合的（synthetisch）なのである。

ラディカルな現代の認識者として、そして、新しいチェコの世代の教師・指導者として、ヨセフ・チャペックの重要性はいくら強調されても強調し過ぎることはない。彼は対象を射抜くような鋭いまなごしで芸術あるいは芸術家の方向性を認識しながら、同時に、自由に、意志強く頑固に、それを彼自身の民族が持つ形式言語、意味世界に変形していった。そして彼はいつも自らをもっぱらヨーロッパに関連付けているために、彼はまたチェコの同時代人にヨーロッパへの門戸を開けることができた。今日、現代のチェコの造形芸術がその土着性

にもかかわらず、国際的方向性を備え、またいつでも、どこでも入口を見つけ出し、他の創造領域に比べて地方に縛られることが少ない、といった事柄は、ヨセフ・チャベックに負うところが大きいということは否定できない。この功績は、彼が持つ一連の自律した個性によっていることはいうまでもない。

チャベックから他の国々の時代の開拓者に道が通じているだけではなく、その道は、また彼のチェコの同時代人、闘いの仲間にも通じる道であった。彼のリアリズム、柔らかい、揺れ動く丸みがそこに重なっていく特徴的な四角形、彼の絵画の詩的であると同時にあからさまなポスター的なもの、形式と内容のジグザグに関する彼の卓越した意味づけ、絶えず積極的な社会的ダイナミズム、こういったものが彼をして、彼の民族にとってのみならず、むしろそれらが存在している発展段階にとって特別なものとして際立たせている。なぜなら、彼は、今生きている現代を完全に掬い取る以外の何物も欲していないから。

彼が認識しなかったテーマは皆無である。強い男、粗野で生々しい男。魅力的な女性的優雅さ、大都市、田舎の素朴な遊び。彼の都市におけるアメリカナイズされたものの中に同時に田舎の粗野な力が入り込んでいる。逆に彼の農村のモチーフの中に都会が入り込んでいる。これは疑いなく現代のチェコそのものである。彼の絵画のすべてにおいて、はっきり見えないうがしっかり根をおろしている〈ユーモア〉によってチャベックは他に抜き出ている。このユーモアは、必要な時には、アイロニー、風刺として研ぎ澄まされる。ユーモアというのは、重要な人物の卓越性、より深いエトスであり、今ある自分をより一段階上に高めるために、間違ったパトスを必要としない真の芸術家の鳥瞰である。

(Johannes Urzidil "Zeitgnössische Maler der Tschen" S. 26-29 Forum Verlag 1936)

Stefan Mitzlaff - Kassel (ERD)  
LERNEN AUS GESCHICHTE:  
JOSEF CAPEK (1887 - 1945)

Der Schriftsteller und Künstler aus Tschechien ist eine Art "leuchtendes Beispiel" und leuchtet im Dunkel - doppeltes Dunkel. Unabhängig von Parteien arbeitet er mit Bild und Text gegen Faschismus und Rassismus, der in Spanien, Italien und Deutschland gewonnen hat und 1936 den Partner Japan gefunden hat. UND: 1939 wird die Tschechoslowakei von Deutschland erobert und der Jude Capek kommt in ein Konzentrationslager, wo er 1945 kurz vor Ende des Krieges ermordet wird.

In keinem der Länder passt nun der unabhängige Geist ans Licht zum Lernen aus Geschichte. Josef Capek war bis 1939 Autor von Fach- und Kinderbüchern und Journalist. ULRICH GROCHTMANN verdanken wir die umfangreiche Biografie, den Abdruck der Zeichnungen und nicht zuletzt die letzten erhaltenen Texte aus dem Konzentrationslager (1940).

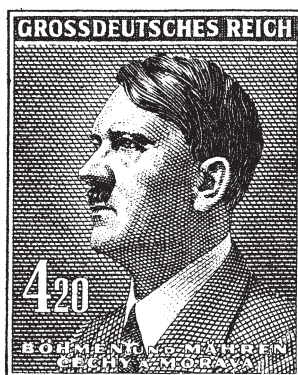
Hier die Zeichnungen und die Texte zum LERNEN AUS GESCHICHTE.

Literatur:

ULRICH GROCHTMANN: Geschichte aus der Nähe - JOSEF CAPEK; 4. überarbeitete und erweiterte Auflage 2012; 456 Seiten; trafo Literaturverlag, Finkenstr.8, D 12621 Berlin; ISBN 978-3-86465-004-5.

Korrespondenz:

Capek-Gesellschaft, Gerh.-Hauptmann-Str.4, D 58093 Hagen. Auswahl zur Ausstellung: Stefan Mitzlaff, Anthoniweg 16, D 34131 Kassel.



Stefan Mitzlaff-カッセル(ドイツ)  
歴史から学ぶ  
JOSEF CAPEK (1887-1945)

彼は、チェコの作家であり芸術家として“卓越した模範例”といえます。彼はまた、闇一重の闇を照らし出しています。諸政党とは関わりなく絵とテキストで、スペイン、イタリア、そしてドイツで、更に1936年に日本でそのパートナーを見つけたファシズムと人種差別主義に対して闘います。それに加えて：1939年、チェコスロバキアはドイツに占領され、ユダヤ人のCapekは強制収容所に入れられ、そこで1945年、終戦直前に虐殺されました。

どの国でも現状では、歴史から学ぶことを呼びかける独立した精神を避けたがるものです。JOSEF CAPEKは、1939年まで専門書と児童図書の作家でジャーナリストでした。私たちは、ULRICH GROCHTMANN<sup>注1</sup>に感謝しなければなりません。彼が、JOSEF CAPEKに関する多数の生涯記録、デッサンの複製、それだけではなく強制収容所での最後のテキスト(1940年)を保存して現在に伝えてくれました。

ここでは、デッサンと「歴史から学ぶ」へのテキストを収録しました。

文献 注1

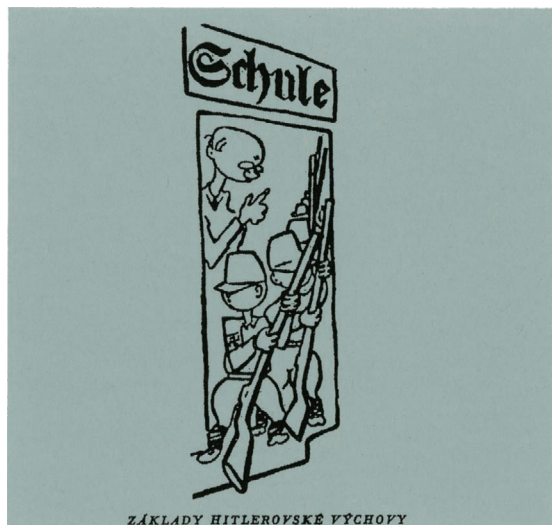
- ・ ULRICH GROCHTMANN : JOSEF CAPEK に関する詳細な生涯史
- ・ 改訂・加筆された第4版 2012年; 全456ページ
- ・ trafo Literaturverlag, Finkenstr.8, D 12621 Berlin ISBN 978-3-86465-004-5.

通信:

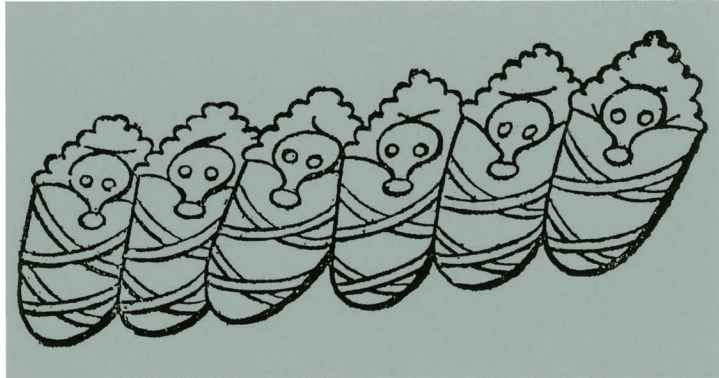
- ・ CAPEK-Gesellschaft, Gerh.-Hauptmann-Str.4, D 58093 Hagen.
- ・ 展示選集
- ・ Stefan Mitzlaff, Anthoniweg 16, D 34131 Kassel



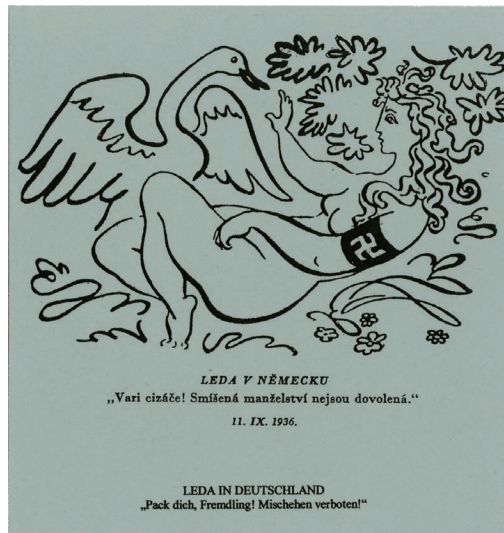
- 1 In Deutschland jagt man die Juden von den Schulen  
14.5.1933
- 1 ドイツで学校から狩り出されるユダヤ人  
1933年5月14日



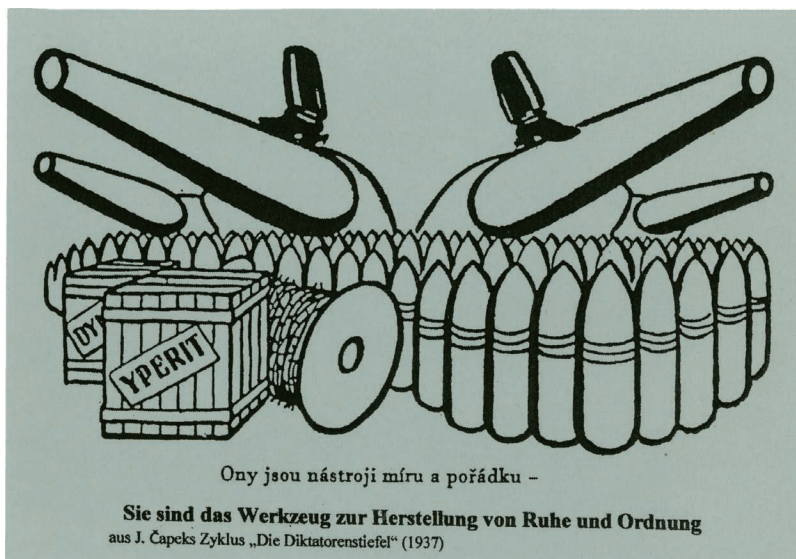
- 2 Ein guter Schüler wird guter Soldat in Deutschland  
14.5.1933
- 2 ドイツではいい生徒が、いい兵士になる  
1933年5月14日



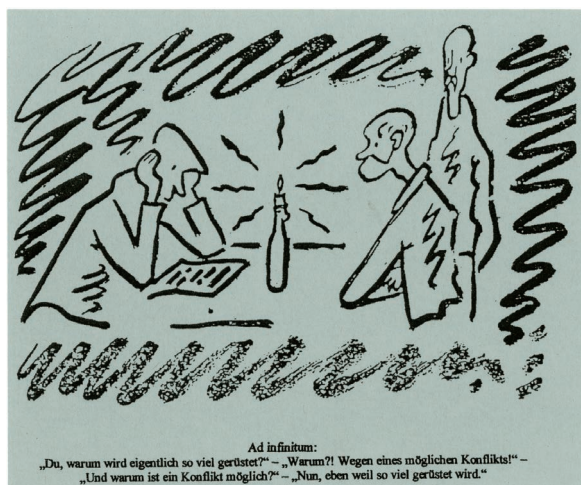
- 3 Künftig haben wir nur Kinder, die rassistisch sauber sind und mit einer Gas-Maske schon geboren werden  
18.10.1936
- 3 将来、我々の子どもはただ人種的に汚れがなく、ガス・マスクをつけて生まれてくる  
1936年10月18日



- 4 Die schöne Leda (eine griechische Geliebte des Gottes ZEUS) kommt als Schwan zur Liebe mit Gott. "Gott Hitler" sagt: "Weg mit Dir - keine gemischte Familie!" (Keine Heirat von Deutschen mit Juden)  
11.9.1936
- 4 美しいレダ(神ゼウスのギリシャの愛人)が、白鳥として現れ神への愛を誓う。「Gott Hitler」と。「すぐに立ち去れ! 雑種家族は要らない!」(ドイツ人のユダヤ人との結婚は禁止されている)  
1936年9月11日



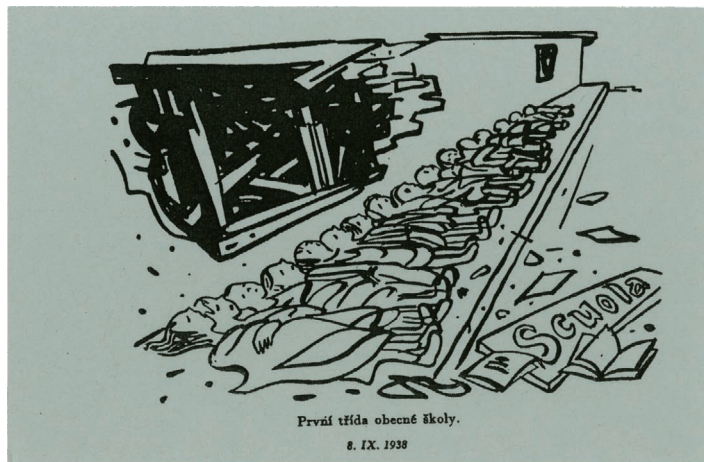
- 5 So macht man Ruhe und Ordnung, fürchte ich  
1937
- 5 そのようにして安寧秩序が作られることを、私は怖れるのだ  
1937年



- 6 "Warum so viele Waffen?" - "Warum? - Zum Schutz vor  
einem Konflikt!" - "Und warum gibt es Konflikte?" -  
- "Ja, weil es so viele Waffen gibt." (Und so weiter  
und so weiter ...)  
1937
- 6 「なぜ、そんなに沢山の武器が？」-「なぜって？ 紛争から守るためだよ！」  
「そして、なんで紛争があるの？」-「それは、そんなに沢山の武器があるからだよ」  
(等々、云々)  
1937年

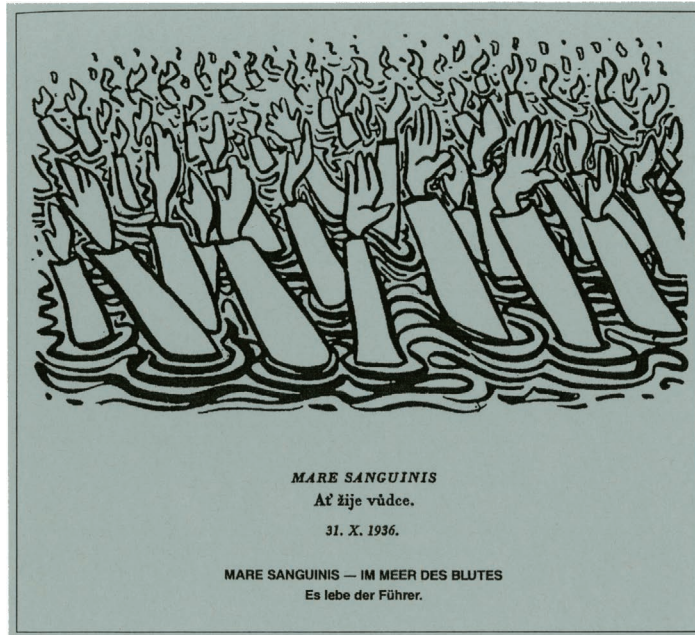


- 7 Der Rauch der Kriege bedeckt die Erde  
23.9.1936
- 7 戦争の煙が大地を覆う  
1936年9月23日

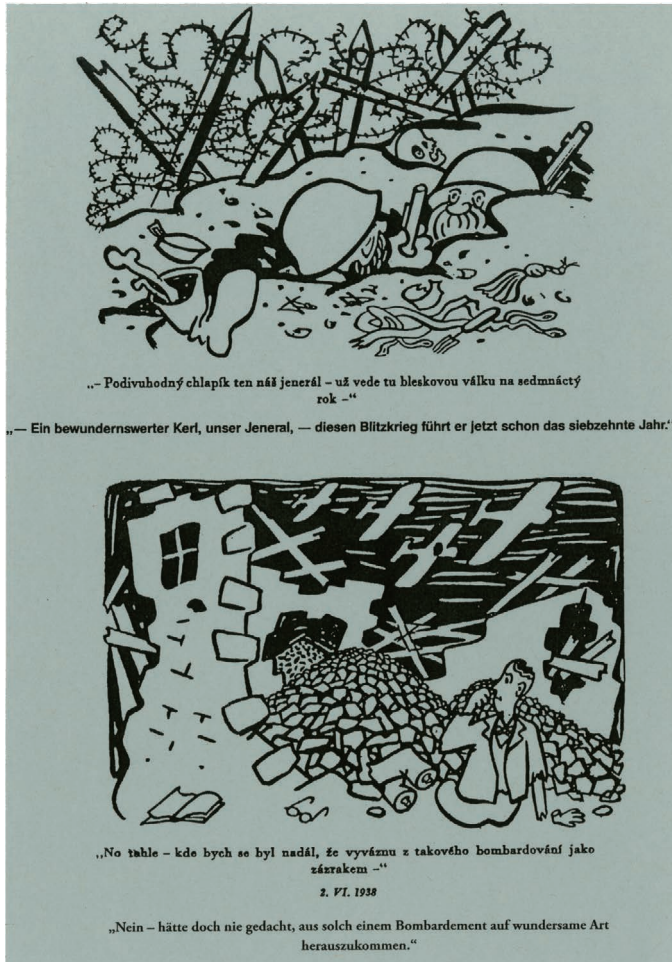


- 8 "Danke für die Sicherheit!" sagen die Kinder in Spanien  
8.9.1938
- 8 「安全なことに感謝します！」と、スペインの子どもたち  
1938年9月8日

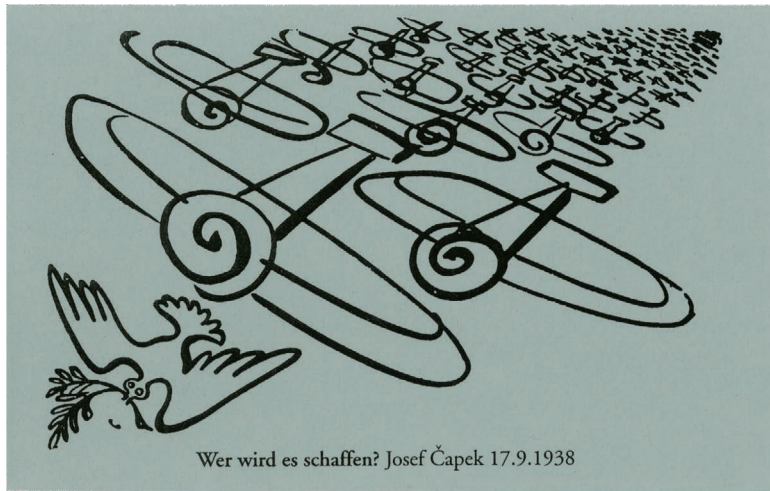




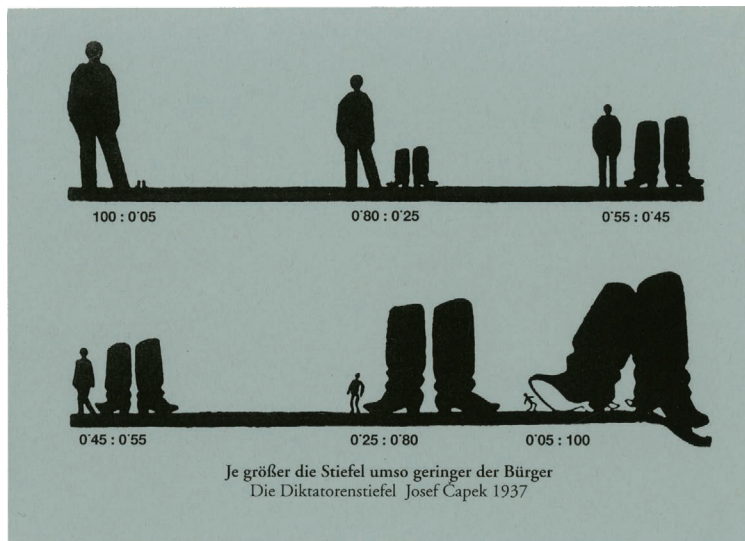
- 9 Im Meer des Blutes - Dank den Regierungen  
31.10.1936
- 9 血の海で—諸政府に感謝  
1936年10月31日



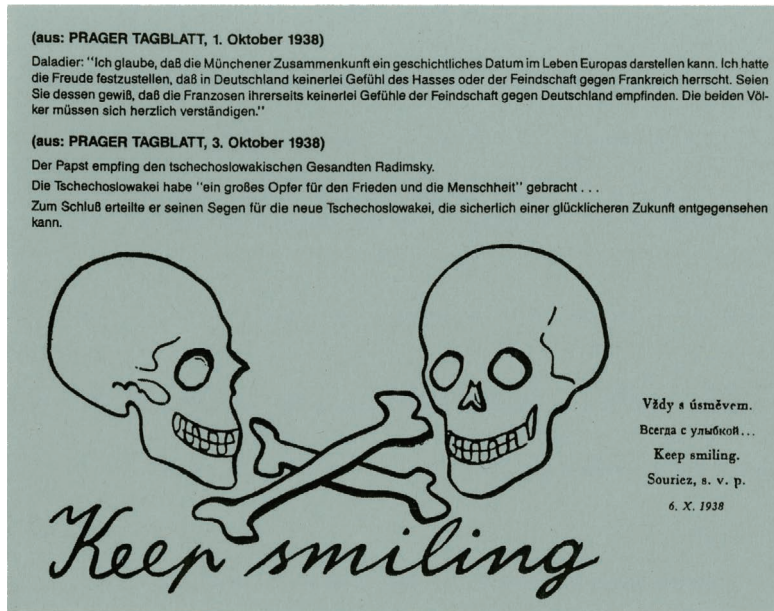
- 10 "Unser General ist wunderbar: Seit 17 Jahren nur kurzer Krieg!"  
"Oh Dank, dass ich überleben durfte!"  
2.6.1938
- 10 「我々の司令官は、本当に素晴らしい。17年間、ただ短期戦を！」  
「おう、有り難い。なんと私は生き延びられたのだ！」  
1938年6月2日



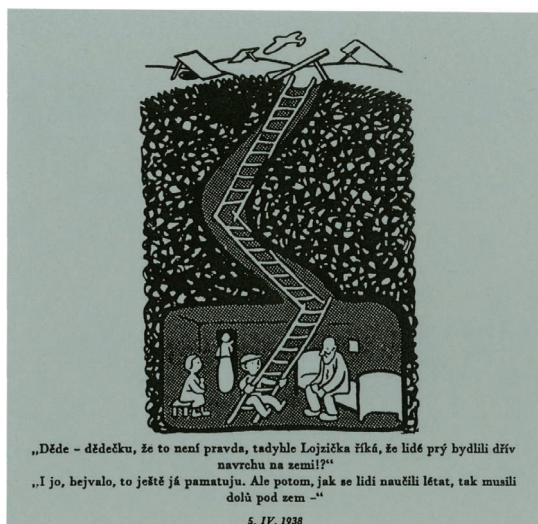
- 11 Friedenstaube und Kriegsflugzeug: Wer wird gewinnen?  
17.9.1938
- 11 平和の鳩と戦闘機：誰が勝利するのか？  
1938年9月17日



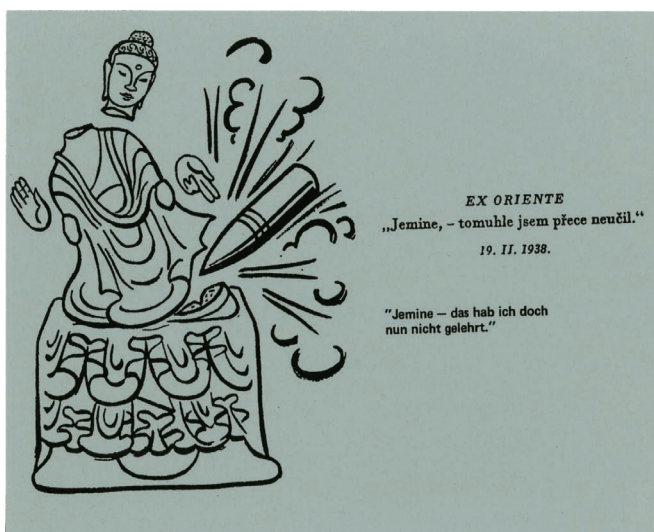
- 12 Der Bürger und das Militär: Je grösser der Soldaten-  
Stiefel, umso kleiner der Bürger  
1937
- 12 市民と軍隊：兵士の長靴が大きければ大きいほど、市民はより小さくなる  
1937年



- 13 Der Tod lacht! England, Frankreich und der Vatikan begrüßen, dass Deutschland in der Tschechoslowakei einmarschiert  
6.10.1938
- 13 死人が笑う? イギリス、フランスそしてバチカンは、ドイツがチェコスロバキアに侵入することを歓迎する  
1938年10月6日



- 14 "Ach, Grossvater - lebten wir früher da oben?" - "Ja, das war einmal. Aber dann mussten wir unter die Erde."  
5.4.1938
- 14 「ああ、おじいさんー我々は、以前にはあの上で暮らしていたよね？」ー  
「そうだよ、昔の話だがね。しかしその後は、地下になってしまったものだよ」  
1938年4月5日



- 15 Im "Fernen Osten" (Japan): "Japan, was tust du?"  
19.11.1938
- 15 「極東」(日本)で：「日本よ、君は何をするのだ？」  
1938年11月19日

JOSEF CAPEK (1887 - 1945),  
seit 1939 im Konzentrations-  
lager, kurz vor Ende des Krie-  
ges ermordet -

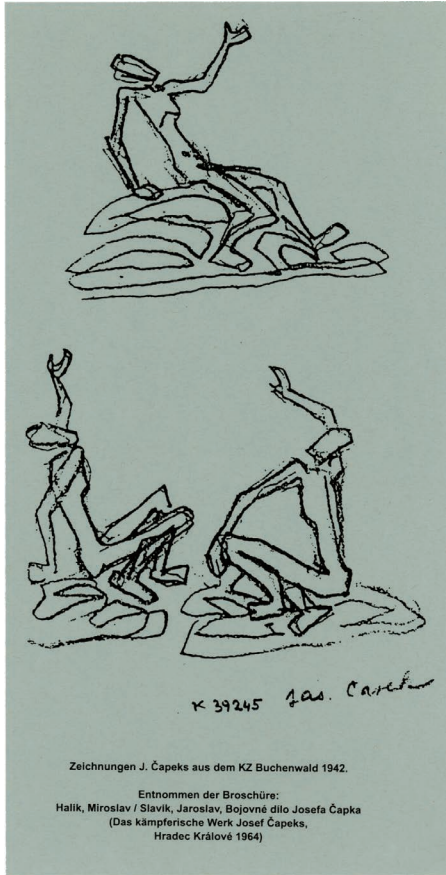
- seine letzten Texte - 1940:

VOR DER LETZTEN REISE

Schwere Zeiten, traurige Tage  
ohne Wahl - ein schweres Los.  
Ihr dunklen letzten Tage -  
die Hoffnung ist nicht gross.  
Zurück ins Leben oder  
in des Todes Schlund -  
was wird des Weges Ende sein?  
Winkt dir das Glück,  
gähnt der Abgrund?  
Tausende gehen -  
du bist nicht allein.

DIE TOTEN VOM WAGEN

Vom Wagen herab - wie ein  
Stück Holz - warf man die  
Toten - nein! - nicht so wie  
Holz!  
Wie verdorbene Waren, wie Ab-  
fälle, wie Müll.  
Ach, wie armselig sind die  
Toten, wie jammervoll und  
elend wir, die wir noch leben.  
Haut nur noch und Knochen -  
- nackt.



JOSEF CAPEK (1887-1945)  
1939 年から強制収容所に入れられ、  
終戦直前に虐殺される

—彼の最後のテキスト—1940 年

最期の旅立ちを前にして

苦痛に満ちた時間、暗澹とした日々、  
選択肢のない—つらい運命。  
君らの闇と化した最期の日々—  
望みは大きくない。  
生きて帰れるのか、それとも  
死の淵(ふち)に落ちるのか—  
この道の終点には何があるのか?  
幸運を願って手を振ってやる、  
深淵が口をあげている?  
数千の人々が行く—  
君は、一人ではないよ。

貨物車両の死者

貨物車両から—あたかも  
一片の木材の様に—投げ出される  
死者—ちがう!—全くのところ  
木片ではない!  
あたかも腐った品物の様に、あたかも  
廃物の様に、あたかもゴミの様に。  
ああ、何と惨めな死者たちが、何と痛ましく  
悲惨なことか、我々がまだ生きるといことは、  
わずかにばかりの皮と骨—  
—裸のまま。

- 16 Letzte Zeichnungen von Josef Capek: Im Konzentrationslager  
Buchenwald 1942.
- 16 Josef Capek の最後のデッサン : ブーヘンヴァルト強制収容所で  
1942 年